

国 運 審 第 2 0 号  
令和 4 年 7 月 1 9 日

国土交通大臣 齊藤 鉄夫 殿

運輸審議会会長 牧 満

答 申 書

川崎市からの一般乗合旅客自動車運送事業の  
上限運賃変更認可申請について

令 4 第 5 0 0 2 号

令和 4 年 5 月 1 6 日付け国自旅第 4 6 号をもって諮問された上記の事  
案については、審議した結果、次のとおり答申する。

## 主 文

川崎市からの申請に係る一般乗合旅客自動車運送事業の運賃の変更に  
ついては、次の額を上限として認可することが適当である。

普通旅客運賃に係る均一制運賃の上限を220円とする。

## 理 由

1. 申請者は、消費税率改定に伴う税負担の転嫁を図るための運賃改定  
を令和元年10月に行ったが、平成7年3月以降、実質的な運賃改  
定を実施していない。

そうした中、申請者は継続的に経営の合理化等に取り組んできたが、  
今後の運転者不足等に対応するため、運転者の労働環境の改善を図る  
必要があり、また、バス車両使用年数の延長により更新を抑制した結  
果、今後更新台数の増加が予想され、さらに、営業所の老朽化対策等  
に伴う設備投資が見込まれるところであるから、収支の改善を図りつ  
つ、利用者へのサービスや利便性を維持・向上させるために申請した  
ものである。

2. 国土交通大臣は、一般乗合旅客自動車運送事業者からの旅客運賃の  
上限の変更の認可にあたっては、道路運送法第9条第2項に基づき、  
当該旅客運賃の上限による総収入が、能率的な経営の下における適正  
な原価に適正な利潤を加えたものを超えないものであることを審査の  
上、同条第1項の認可をするものとされている。

3. 当審議会は、本事案の審議にあたり、当審議会に提出された資料、  
所管局から聴取した説明等に基づいて検討を行ったほか、利用者への  
影響の程度等を確認するため、申請者から意見聴取を行った。その結  
果は、次の通りである。なお、本件について公聴会は開催していない。

平年度（原価計算期間）である令和4年度1年間の運賃算定の基礎  
となる適正な総括原価（能率的な経営の下における適正な原価に適正

な利潤を加えたもの)は9,741百万円、現行の旅客運賃による総収入(補助金を含む。)は8,711百万円と推定されるので、差引き1,030百万円の不足を生ずるものと見込まれる。これに対して、旅客運賃の上限を主文のとおり改定した場合、総収入(補助金を含む。)は8,962百万円と推定されるので、差引き779百万円の不足を生ずるものと見込まれる。なお、国土交通大臣は本件審査にあたり、令和3年12月28日に所管局において見直しを行った人件費の算定方法に基づいて、地域における全産業平均給与額との比較を行うなど、労働環境改善等の観点も考慮されている。

4. 以上のように、本件申請に係る旅客運賃の上限による総収入は、能率的な経営の下における適正な原価に適正な利潤を加えたものを超えないものである。よって、本件申請は上記2.の認可基準に適合するものとして、道路運送法第9条第1項に基づき、国土交通大臣が本件申請を認可することは適当であると認める。

## 要 望 事 項

国土交通大臣は、一般乗合旅客自動車運送事業の運賃及び料金の上限の認可における原価・収入の算定にあたって、経済社会環境が大きく変化する際には、当該影響が適切に反映されるよう、審査のあり方について検討いただきたい。